平成 28 年 6 月 1 日　第 2452 号

営農NEWS

ナシ黒星病の発病が懸念されています。発病部位（葉や幼果など）の早期発見、摘除処理を徹底し、薬剤防除を励行してください。

病害虫発生予報 6 月号（県病害虫防除所）によりますと、5 月下旬現在、ナシ黒星病の果実における発病率（本年値 0.2%、平年値 0.3%）および発生地点率（本年値 35%、平年値 28%）とも平年並の状況ですが、笠間市（園芸研究所内圃場）では発病果率が平年よりやや高く（本年値 2.7%、平年値 1.9%）、また、向こう 1 か月の気象予報では、降水量が平年並か多いとされ、黒星病の発生を助長する条件であることから、今後は**平年並～やや多い発生量**と予想しています。

ナシ黒星病は、発病した葉や果実、果そう基部などに形成された分生子が、降雨の時に分散して二次伝染を繰り返します。このため、**伝染源となる発病部位を徹底して除去**し、**園外に持ち出して土中深く埋めるなど適切に処分**することが最も重要な対策となります。この摘除処理を徹底した後に、薬剤防除を励行してください。

なお、平成 25 年病害虫発生予報 6 月号（防除所レポート）によりますと、**ナシ「幸水」の果実が黒星病に再び感染しやすくなる時期は、開花約 65～85 日後頃とされています。このため、6 月中旬～7 月上旬頃がこの期間にあたります**ので、**この間は薬剤の散布間隔が 10 日以上空かないように注意して、効果の高い薬剤を確実に散布**してください。

＜防除のポイント＞

1　必ず、発病した葉や果実、果そう基部などを適切に除去し、適切に処分した後に薬剤散布を行いましょう。
2　本年はナシの開花がやや早かったため、平成 28 年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例等に従って薬剤散布する場合は、ナシの生育に合わせて散布時期を調整してください。
3　ＳＳによる薬剤散布にあたっては，10ａあたり 250ℓ＋補正散布 50ℓを目安に十分な薬量で、**かけむらの無いよう園内を縦横に走行**して丁寧に散布してください。なお、**圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う**ことが重要です。

表１　平成２８年版　露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例（茨城県）より５～７月の殺菌剤防除（殺虫剤は除きました）

防　除　時　期	防　除　薬　剤	希釈倍数
養分転換期（５月下旬）	キャプレート水和剤	８００倍
（６月上旬）	オキシラン水和剤	６００倍
（６月中旬）	フルーツセイバー	１，５００倍
（６月下旬）	ベルクートフロアブル	１，５００倍
新梢発育停止期（７月上旬）	ストロビードライフロアブル	３，０００倍
（７月中旬）	アンビルフロアブル	１，０００倍

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

全農　JA全農いばらき
生産資材部　営農企画課
電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040